

# 令和元年度発達障がいのある子どもの学び支援事業に係る エリア別特別支援教育コーディネーター研修会

管内の幼・小・中学校の特別支援教育コーディネーターを対象に、全ての公立小・中学校等が多様な障がいに対応できるように、各エリアの実情に応じた研修を開催することで、特別支援教育に関する県内の標準的技能の向上をめざすことを目的に実施しました。

期日：令和元年7月1日（月）

場所：竹田総合庁舎 大会議室

対象：管内の幼・小・中学校の特別支援教育コーディネーター

内容：【講義】通常の学級における「個別の指導計画」の作成及び活用

大分県立竹田支援学校 教諭 鳥田いづみ

【発表】通常の学級における「指導計画の作成と活用」

豊後大野市立三重第一小学校 山崎 智博 教諭

竹田市立緑ヶ丘中学校 佐藤美登里 教諭

【演習】通常の学級における「個別の指導計画」の作成

通常の学級における「個別の指導計画」の活用



特別支援教育課 小野課長補佐

## ＜研修会参加者の声＞

- ・コーディネーターとして、学校でどのような役割を果たしていけばいいのか、個別の指導計画を作成するにあたって意識すること、活用の仕方等学ぶことができました。
- ・他の学校の先生と協議をする中で困っていることを相談したり共有したりすることができたのでよかったです。これから学校での取り組みに活かしていきたい。
- ・個別の指導計画を、支援学級では作成していました。しかし、通常学級でも必要だということが最近わかってきました。実際に作成してみて、日頃の実態把握が大切だと痛感しました。
- ・読み書きの障がい疑われる児童を担当しており、今日の実践発表の内容がすぐに生かせそうで勉強になりました。
- ・学期ごとに評価をすることが大切だということや対処療法的指導よりも、原因療法的支援のほうが有効だということも知ることができました。子どもの困りを的確に見極めるために、PDCAのサイクルを何度も行うことが大切だと思いました。
- ・うまくいかなかった指導や支援の方法は消さずに、記録として残しておくことが大切であると気づきました。また、学習指導要領にも作成のヒントがあるということも知りました。
- ・特別支援教育に関する情報は、本当に引き継ぎが重要だと思います。今回の研修では、幅広い実践例と指導要領などの資料が充実していて、大変参考になりました。今回、改めて、担任1人で抱え込むようなことがないよう、学校内の支援体制を見直すよい機会にもなりました。全教師で情報を共有し、協力しながら、連携を図りたいと感じました。



三重第一小学校の山崎先生からは、特別支援コーディネーターとしての役割と個別の指導計画作成の流れを、ご自身の経験をもとにわかりやすく説明いただきました。

緑ヶ丘中学校の佐藤先生からは、生徒の実態や今後の進路希望等を考えながら、個別の指導計画の内容の検証・改善の様子を具体的に説明いただきました。

どの学級にも何らかの支援を待っている子どもがいるかもしれないという前提のもとで、特別支援教育コーディネーターを中心とした全ての職員の協働と共通理解の中で、具体的な支援が進められていくことが重要です。事例発表していただいた山崎先生、佐藤先生、ありがとうございました。